

刊夕日八月二十



定価 一月五拾圓
 廣告料 五拾圓
 電話 六三〇
 印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社

救護法に就て

平町共済會委員 門傳清吾

救護法は前述した如く社會公共の爲め人道の爲め社會缺陷の救済を目的として生れた、公正純良なるものなるに拘らず其趣旨目的に反して右規定の如く詐欺其他の不正手段に依り救護を受け又は受けしむるが如き者は實に社會人道の反逆者であり敵であるから是等の反則者を防止する爲めに處罰するの當然である、寧ろ刑法の詐欺罪に準して嚴重處罰するも酷ではないと思ふ

第三十三條本法中町村に關する規定は町村制を施行せざる地に於ては町村に準すべきものは町村に關する規定は町村長を準すべき者に之を適用す

右規定は本法を町村制を施行せざる土地及其町村長に準すべき者に適用することを規定したので説明の余地はない

以上を以て救護法の大体の説明を述べたのであるが、自分は素より此の法律の起草に關係した者でもなく關係した人から詳細なる説明

綴り方

いやな道

平第一小學校 第五

山崎道雄

僕がいつも通る道で、一つ、いやな所がある。それは坂をおりきつた所にランプやのゝることだ。そして、そこを通るたびに「ニヤリ」と笑ふ。その笑ひ方がとても變なのだ。僕はそこを通るのがいやでたまらない。

それで廻り道をしようと思ふが、少しおそく家を出ると復習時間におくれる。時

には目をつぶつて行つて、ころんだこともある。今日も、學校へゆく途中例のランプヤがむすびを食べてゐたが、僕の姿を見ると、いそぐとそのむすびをかくしてしまつた。なんの氣も知れないが、變なことをするものだ。

僕は早くそのランプヤがそこを去つてくれればよいがと思つてゐた。

内小科兒科花柳病科
藤沼醫院
 入院應需

平町紺屋七〇番 電話五七〇

井の
手切商品
 番 八 四
 三 二 八
 電 三 三

開店

皆様！ 新たに時計店が出来ました。御客様の御満足をもつとして御務め致します。何卒幾久しゅう御引立の程御願ひ申上げます。

◎開店御披露の爲め 十二月十五日まで實用優良品を市價二割引の特別奉仕値段を以て提供致します。

◎修理は弊店の最も得意とする處です。若し御工合の悪い御時計でも御座いましたら精々御遺しを願ひます

確實な品を安く修理は
 町噂……正確……迅速

白寶堂時計店
 平新川町月見橋際

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町 (電話一七〇番)
大和田醫院

冬服百貨

紺色柄物……三ッ揃……拾貳圓

最新柄……三ッ揃……拾三圓五十錢

スゴッチ……三ッ揃……拾六圓五十錢

最上紺黒……三ッ揃……拾九圓

高級品……三ッ揃……拾九圓

ウイステット

平町正札堂洋服店 電話四三六

玉屋洋品店

平町田町通電話六五六番

専門 **内科一般**

宅診 内科は何でも診療致します。往診 呼吸器病ばかりではありません

平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井重之
 女醫 川井安子

移轉お知らせ

此度平町田町七十五番地 (元平町役場跡) に移轉致しました。従來の通り一般の診療に従事致します。右お知らせまで。

昭和六年十一月廿九日

平町田町七十五番地

清水醫院

醫學士 清水廣政
 電話二三八番

女子會館建設費に

百五十圓寄附

平婦人會主催

映畫會大成功

平婦人會が先般女子會館建設寄附金募集の爲め開催した活動寫真會の結果は百五十圓を同寄附に當て差引殘十八圓九十七錢を婦人會事業費に繰り入れた由にて收支決算書左記の如くである

(收入) 婦人會取扱會費百四十三圓四十錢、女子青年團取扱會費廿二圓、第一回入場料廿圓十錢、第二回同廿九圓廿五錢、夜間受付取扱六圓六十錢、合計二百廿一圓卅五錢
(支出) 女子會館建設費寄附百五十圓、會場料廿五圓、電動代五圓、雜費二圓卅八錢、合計百八十二圓卅八錢

石城郡出 平町各種 身在滿兵 團體募集

慰問金品

八日現在

□材木町 (貳圓) 柳田榮太郎 (壹圓) 阿部太平 金成泉一郎 長瀬富彌 石山謙郎 鈴木要七 大原博 石山治三郎 小菅熊吉 石川義助 (五十錢) 馬上左工門 北川鶴吉 蛭田忠治 鈴木勝彌 河部傳六 渡邊政敏 渡邊寅吉 石山忠三 綠川茂

鈴木義徳 桑原清 高田衛 佐藤卯右工門 桑田好美 根本幸次郎 高倉豊 磯上莊三 中津一郎 橋谷田千代壽 吉伴鐵工場 高橋静 千代幸三郎 石川要司 白土正夫 木下富市 鈴木淺之助 原下清記 山田長四郎 (四十錢) 長澤甚次郎 (三十錢) 新妻徳之助 秋山清太郎 武田友八 助川彌太郎 佐々木養藏 長谷川實 佐々木芳一 土屋健吉 土屋文吉 富岡寅五郎 伊關爲助 長谷川常吉 (二十錢) 矢内貞徳 吉野健助 佐藤友壽 猪狩寅次郎 池田睦三郎 河トラ 渡邊兼吉 佐藤住三郎 岡部楠雄 菅波角藏 綠川桃太郎 中根ナカ 木出謙治 東條千代正 藤田儀三郎 松原嘉藏 野木秀雄 片寄猛 澁井末吉 田崎保重 長谷川兵清 田谷武志 大平泰一 作田文平 阿部善作 高橋はる子 須賀井長治 相澤喜四郎 井上實 瀧美猛 矢島力 駒組貞次郎 宮田キヨ 龜岡國友 小菅金平 鈴木定藏 (十五錢) 菊地丹次郎 矢口峯三郎 木村

收 佐藤藏重 (十錢) 大原平重 關榮助 島田七郎 小松傳十 志賀寛瓜田壽 渡邊榮治 松石兼次郎 高津周藏 吉田龍次 鈴木善八 北郷信太郎 長谷川貞治 藤田寅松 松田ユキ 白土泰造 木村定吉 鹽澤傘松 中山武雄 大平静 稻川春吉 結野マツ 高橋リシ 高橋善次郎 藤野徳治 木村浩 鈴木キヨ小菅仙吉 富長重次郎 叶重長之介 黒内鶴次郎 池田貞治 菱沼英四郎 横田平造 野澤定助 平澤權次郎 井上篤松 佐々木久二 (名入風船五百ヶ) 材木町青年分團 (小粒セン丹五十服) 島辰次郎

政下 醫井ツネイ 芳賀登喜雄 黒井春雄 鹽田勝次郎 丸山とみ 清水いし 北條直 志賀信雄 鈴木佐吉 (貳拾錢) 三浦鶴治 鈴木忠治 大塚靴店 鐵扇屋 松本節枝 萩野信良 深谷靴店 佐藤喜内 野村さん 松崎吉三郎 柏木權次郎 佐藤菊治 郡充 鈴木清三郎 小泉ハル 鈴木角太郎 海野義雄 村上琢郎 矢島良助 村山三郎 藤浪時康 植野嘉重 吉田勢武 千代謙次 根本清儀 坂本半五郎 大和田勇 佐藤良助 網代遠之介 淺沼末四郎 猪俣謙次郎 山本勝次郎 三富末松 菅野千代 北野吉太郎 西尾辯治 高木徳定 赤塚登 酒井幸太郎 本田豊治 後藤忠雄 櫻井浦子 坂本基平 北條照子 中島千代松 志賀千代 小松崎貞之助 松永友太郎 國井榮吉 守田榮吉 (十錢) 平田喜作 青山勤 新堀直純 中尾照 佐藤勝藏 關地政之助 河邊孫吉 山口吉時 尾形要治 齊藤平松 土屋重松 小林豊 根本き

□三丁目 (壹圓) 梅原利三郎 片倉クラ 江尻直次 藤居勝武 藤居ヤイ 入江愛 小野伊佐治 横山影介 大津賀善吉 小蝦治兼吉 中野吳服店 猪狩嘉平 永木八五郎 坂本直吉 佐々木喜代治 馬目勝治郎 馬目ヨネ

大谷武雄 阿部榮造 永山小平 佐々木熊吉 佐々木テヲ 石島吉太郎 齊藤寅松 渡邊忠吾 大谷久藏 ナ谷ヤス 鈴木義忠 (五十錢) 北村幸吉 高野正造 加藤鐵一郎 西牧羊吉 佐々木長作 阿部源造 五十嵐政七 星野清作 田崎信徳 齊藤千代重 江尻豊吉 藤彦 高木福太郎 海老根淺吉 加藤稔 加藤ヒサ吉田貞重 佐川三郎 小松三造 平野井子之松 佐藤賢松 長谷川末吉 山田忠太郎 武田ヨシ 鹽崎角造 篠原留吉 石川弘 高野虎三郎 (參拾錢) 大原安助 横幕仁三郎 加藤元之助 (貳拾錢) 半谷祥重 高橋豊川村ミサヲ 大野與四郎 平澤竹太郎 櫻井宗助 平澤良平 新妻コウ 田中美福 (拾錢) 高根澤松三郎

愈々伏見平町長が

猛運動に乗り出す

新川の縣費支辨川編入と 本町通り舗装工事の請願

既報新川を縣費支辨川編入の件並に平町本町通りの舗装工事實施請願の爲め伏見平町長は内郷飯野兩村長と共に十日出縣する事になり郡下選出各縣議と協力し是れが實現に努力すると

けふ林野保護總會

二組合と六十三名を表彰

既報石城郡林野保護組合の總會は本日午前十時より平署會議室に開催し優良組合として箕輪村大利組合並に優良組合員六十三名の表彰を行ひ終つて櫻村平署長より左の指示を受け明七年度の豫算を協議して午後二時散會した

けふ平役場へ

寄託された金品

けふ平町役場へ在滿兵の慰問金品として寄託されたのは磐城佑賢學舎職員生徒代表大和田豊吉氏より十一圓五十錢、新田町橋家千代丸吉野家の金太郎、久本ぼたんの諸技から慰問袋各々一箇宛、平第一小學校高等一年生徒一同より二圓七十七錢其他二十四區舊城跡の市民から九十四圓九十錢と眞綿百五十枚、石鹼一箱、北

保安裝置検査

平保線區管内の保安裝置検査は十日から十五日まで左記の通り執行する

十日赤井、小川郷、平、十一日平、十二日平、綴十三日綴、十四日湯本、十五日泉、植田、勿來

平町人事

△立町九 當時石城郡内郷村字宮澤正木キク(三五) △月見町 佐藤源吾(六一)

往來

△元縣議鈴木辰三郎氏 六日午後六時上野より歸平 △縣議萩原義雄氏 六日午後四時列車にて福島へ △白井博之氏 七日午前十二時上京

回死

△立町九 當時石城郡内郷村字宮澤正木キク(三五) △月見町 佐藤源吾(六一)

博覽會の建設用材

満載した貨車廿車

けふ平驛に到着す

早速地均工事を開始

既報一昨春平町に開催さるべき産業博覽會は其後着々諸般の準備を整へ出品多數に達すべき見込みにて事務局に當てたる平町役場には連日是等に關しての照會狀殺倒しつゝあるが本日は豊橋市から建築物用材が平驛に廿車到着し貨物係りが大繁忙を來した、尙一兩日中に敷地の地均工事に着手し先づ事務局の建物を最初として建設工事が開始される筈であるから平町の一角に各館が偉容を示すのも間近であらうと

米値段強氣

三十錢高

最近迄石城郡下の米相場は五等米で一駄十二圓五十錢がらみに落付いて居たが今回政府の第二次買上米の發表と共に昨日より五等米は十二圓八十錢で三十錢の高値を唱へたが間もなく新米が盛に出廻るにつれ再び値安になるであらうと

新戦術

各區長が戸別訪問

平町では諸税の滞納防止策としてさきに納税組合設立を奨励完納組合に對してそれ／＼交附をなしてゐたが

平青年團に

月次修養部

左の行事を行ふ事になつた由
討論會、講演會、講習會、視察、見學、辨論會、座談會其他適當と認めたること
而して毎年一回中央より名士を聘して大講演會を開き其他公益事業の援助に努むると

留守をねらつは衣敷其他を窃取して居た事を自白したので目下餘罪取調中である

毛糸編物講習

平町田町ハシモトヤにては十三日より五日間、講習料無料

寄進(七)は六日午後九時頃石城郡内郷村の磐城劇場裏を徘徊中駐在所員に怪しまれ取調を受けた結果四日午後三時頃湯本町青葉下坑夫合宿所居住渡邊富吉に借りた銘仙着物と羽織を二圓五十錢で入質し酒代に使つた外前記合宿所や坑夫長屋の

けさ平町で

ガラス戸鳴動

浅間山の爆發で

今朝八時頃平町にガラス戸を鳴動せしめる程度の爆音あり市民はまたも炭礦の爆發かと怪しんだが右は午前七時三十分頃淺間山が突然大爆發をなし附近部落へ土砂小石等を落したものであり

一躍増加

牛は相變らず

去月中屠畜頭數
平警察署で調査した屠畜物に於ける十一月中の屠殺數は牛十頭、馬五十五頭、豚百四十六頭、計二百四十四頭であるが豚は去月より廿

年賀郵便の準備

平局が萬全を期して

平局では例年通り二十日から年賀郵便の取扱ひをなすに就て目下準備を急いでゐるが今年も臨時に二十餘名を雇入れ萬全を期すると

記念事業

石城郡磐梯村青年團はこの程教育勸誘演發五十周年の記念事業として石城名産不知柿の苗三百本を共同購入分割してこれを植



今晚は北西の風
明日は北東の風
風午後には曇り

今晚の部

後六、〇〇(子供の時間) ハーモニカ合奏 仙臺市高等工業學校ハーモニカバンド
後六、三〇 英語講座「中等科」花園兼定
後七、三〇 賊界雑話(一) 後八、〇〇 放送映畫劇「噂の女」新興キネマ現代劇部

明日の部

後八、四〇 放送歌劇「トワアト」東京府在原町新交響樂團演奏所より中継
後九、四〇 時報 全國ニュース 氣象通報
前九、一〇 料理献立「鶏肉梅田焼外一つ」中村康子
前一〇、三〇 家庭講座

貧困者救済

町村長會協議

石城町村會支會では八日午後一時より平町役場會議室に評議員會を開き郡下各町村出身の在滿兵の家族慰問する件と年末に際し生活難に窮して居る者の救護其他に就いて協議を行ふ筈である

水道砂利購入

平町では年末の失業救済事業として登録失業者から上水道

「多事なりし昭和六年の終りに」(一)宮田修
後〇、〇五 ジャズ 獨唱
二村定一 井田一郎 ジャズバンド
後二、〇〇 家庭大學講座「論理學」早稻田大學教授 中桐隆太郎
後六、〇〇(子供の時間) お話「平治の亂」堤峯次郎
後六、三〇 英語講座「初等科」寺西武夫
後七、三〇 財界雑話(二) 後八、〇〇 運動競技「日米拳闘俱樂部主催拳闘試合状況」
後九、〇〇 常磐津「山姥」常磐津和佐大夫外

林道開發計畫

勿來町の山間部落民は不況に添ふ對策として失業救済並に部落民の福利を圖らんとすこの程木材の伐採運搬に支障を來してゐる林道の開發を徹底的に斷行すべく一萬九千餘圓を縣に對し起債申請をなしたが許可と共に窮地に陥つてゐる町民は大に浮ばれることである

佐藤區長逝去

平町月見町區長佐藤源吾氏は豫てより自宅にて病氣治療中であつたが昨日夜九時頃突然腦溢血を併發死去した葬儀は明日午後二時執行の由

カクテル
1752
レストラン

- △農夫、廿才前後 給料面談(神谷村)
- △土車力、四十才以上 通勤八十錢位(平町)
- △女中、四十才前後 五六圓(平町)
- ▲求職の部
- △旅館番頭、廿七才 尋卒(伊達郡)
- △時計職、廿一才 高卒(田町)
- △雑夫、廿才 高卒(湯本町)
- △商店雜役、四十一才 尋卒(平町)
- △農夫、廿四才 高卒(山形縣)
- △女中仕、十七歳 高卒(檜植小路)

